
鎮魂歌

それは誰がためのレクイエム

blade world

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鎮魂歌 それは誰がためのレクイエム

【Nコード】

N6630Z

【作者名】

blade world

【あらすじ】

ロシア、ウラジオストクである「事件」が起こり、存在が明らかになった、「魔人」の存在。その「事件」の中心にいた魔人の少女があること伝えるために記す、彼女の体験とは？

Prologue

この本を手にとって読んでくださっている方へ

はじめまして。私は、サーシャ・ロジェスト。このプロローグの後に続くお話の著者にして主人公です。

2010年3月27日、私はロシアのウラジオストックで起きた「事件」に巻き込まれました。皆さんはこの「事件」で「魔人」の存在について知ったと思います。念動力を操ったり、未来を予知したりなどといった特殊な力を使うことができる人たち。

それが「魔人」。

ここまで読んで、もう気づいた人がいるかもしれませんね。

そう、

私も、「魔人」なのです。

「事件」は、私たち「魔人」の存在を知り、脅威に感じた人たちによっておこされました。ですが、「事件」では「魔人」ではない、普通の人まで巻き込まれました。もちろん私の友達も巻き込まれました。死んだ子もいます。ひどい怪我を負った子もいます。

けれど、だからこそ、私はみんなに知ってもらいたいことがあるのです。あなたは「魔人」が、特殊な力を持っていて、あなたとは違う恐ろしい存在と思っているかもしれない。しかし、私たち「魔人」も、悲しんだり、笑ったり、喜んだり、泣いたりする、あなたたちと同じ「人間」だと分かってほしいのです。

なので、これから「事件」が起こる数日前から、事件が終わるまで私が体験したこと、感じた事を書いていこうと思います。

それでは、「鎮魂歌」 始まります。

s c e n e 1 - 1

私、サーシャ・ロジェストはロシア、ウラジオストックに住む17歳の女の子で、もちろん、学校にも通っていません。

3月20日。その日、私は授業が終わった後教室の掃除をしていたら、一緒に掃除をしていたクラスメイトの一人、ニーナが校門のそばにこの辺りでは男の子がいるのに気がついた。

「ねえ、門のそばにいるのって誰なんだろ？転校生かな？」

「ん？どこどこ？お、あれね。確かに見ない顔だけどなんか荷物いっぱい持ってるじゃん。それに外国人っぽいし、留学生なんじゃないかな？」

「けど、サーシャ。それだったら門のところ突っ立ってないで事務室辺りにいってると思っただけど。」

「確かにね。けど、留学生だといいなあ。あの子、結構私好みの顔してるし。」

そう言った途端、ニーナは苦笑いを浮かべていた。

「何よ。私何か変なこと言った？」

「いや サーシャのシヨタコンは相変わらずだなあとと思って。」

「なっ！！何よ！？年下が好きなのがだめっていつの！？」

「二人ともしゃべってばかりいないで、ちゃんとも動かせよ。」

そう言っただけでこれまた同じクラスの男の子、セルゲイ？ウエンスが話しかけてきた。

ここでウエンス君。君にそんなこと言われたくはないのだが。なぜなら?????

「掃除当番じゃないあんたが言っても説得力ないよ、セリョーガ。」

「まあそう言っただけで、件のサーシャくだん好みの顔をしている奴はどこにいるんだ？」

自分で手を動かさせていっただけで、言われて掃除に戻ろうとしている私たちに聞くか？、と思いつつも私とニーナはその子がいる場所を指差した。

「さてと、どんな奴なのかな？って、あいつ来るの早すぎだろ!？」

「何!?!もしかして知り合い!?!だったらちよつとしよぶつ!?!ちよつとニーナ、何すんのよ、いきり!?!」

「少しは落ち着きなさい、サーシャ。で、彼あなたの知り合いなの?？」

s c e n e 1 - 2

「で、彼あなたの知り合いなの？」

「ああ。父親の仕事の関係で6年前まで俺の家の近所に住んでた奴なんだよ。アイツが日本に帰った後、アイツがこっちに遊びに来たり、逆に俺がアイツの家に遊びに行ったりしていたんだ。で、アイツが来るってのは聞いていたんだけど、もう少し遅くに着くって言うってたのに。」

「こんなやり取りがあつた後に私たちはセルゲイの友達を紹介してもらつた。」

彼の名前は、霧島 優人きりしま としゆのこと。そして、今はセルゲイの家に行く途中なのだけど??????

「ユウト!!!何でこんなに荷物が多いんだ!?!前来たときの三倍もあるじゃねーか!?!」

「いやー、入った高校のクラブがさ、ボードゲームとかカードゲームとかをするとこなんだよ。染んでやって面白かったやつをセリョーガとやりたいと思って買ったんだよ。いっぱい。おもしろいぞー。」

「俺への迷惑とかも考えてくれよ!!!!!!」

などと言いつているセルゲイとユウトの隣を私とニーナが歩いていた。日本の学校にはそんなクラブがあるんだー、とのんきに考えていると、ある疑問が浮かんだ。なので、

「ねえねえ、そのボードゲームってさ、二人だけでもできるものなの？それとも、三人以上だと無理なの？」

と、疑問に思ったことを聞いてみた。そしたら、ユウトは冷や汗だらだらと流しながら、

「セリョーガと遊ぶことしか考えてなかったから、そういうのはまったく考えていなかった。二人でできるのなんてあったかな？」

「「「おい！！！！」「」」

ゲームの人数を考えないで持って来るなんて、けっこう馬鹿なんだろうか？とところで、セルゲイの目に涙が浮かんでいるように見えたのは気のせいだったのかな？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6630z/>

鎮魂歌 それは誰がためのレクイエム

2012年1月13日01時45分発行